

科目名	小児看護方法 I (疾患と看護) Pediatric Nursing I		担当教員 (研究室番号)	前田 貴彦 (206) 宮崎 つた子 (207) 上杉 佑也 (208)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	前田:takahiko.maeda@mcn.ac.jp 宮崎:ttsutako.miyazaki@mcn.ac.jp 上杉:yuyua.uesugi@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を習得する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。 (知識・理解)										
	関連する DP	C その時代の社会情勢や、人々の健康に関する課題に沿った看護のニーズを意欲的に探求する姿勢を身につけている。(興味・関心・意欲) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・理論的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題が子どもと家族の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を検討し、記述することができる。 健康問題をもつ子どもの身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について、成長・発達段階に応じた方法を検討し、記述することができる。 健康問題をもつ子どもの家族の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響や問題を解決するための看護方法について検討し、記述することができる。 小児の看護技術の特徴や特殊性について記述することができる。 											
成績評価方法 (基準)	筆記試験 (85%)、事前学習内容 (15%) 事前学習未提出およびグループワークを欠席した場合は減点対象とする。											
再試験の有無と 基準等	科目の可否結果で不合格となった者には、当該学生からの申請があれば再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでの課題や出席状況は再試験の評価に加味しない。											
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護③ 小児の疾患と看護 メディカ出版											
参考書等	講義の中で必要時提示する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	本科目で学習する内容は3年次の臨床実習に直結するため、授業の理解を深めて欲しい。また、授業では事前学習の内容を中心にグループワークで具体的な看護を検討するため、しっかり事前課題に取り組み参加することを期待する。											
備考	小児看護概論を修得していないと履修できない。 小児看護方法Ⅱの先修条件となっている。											
回	学習項目				学習内容				担当 教員	授業 方法		
1回	健康問題をもつ子どもと家族①				本科目についてのオリエンテーションを行う。 各年代の認知発達能力の特徴について学ぶ。 子どもの病気の理解や死の概念の特徴について学ぶ。				前田	講義		
2回	健康問題をもつ子どもと家族②				健康問題をもつ子どもと家族の特徴について学ぶ。 乳児期から思春期にある小児の看護の特徴について学ぶ。				前田	講義		
3回	検査や処置を受ける子どもと家族の看護				子どもの権利を考えた上で、検査や処置を受ける子どもと家族への援助方法について学ぶ(プレパレーションの概念と具体的な方法)。				前田	講義		
4回	手術を受ける子どもと家族の看護①				扁桃摘出術を受ける子ども(幼児期)と家族に及ぼす影響や問題とその看護方法について、各自の事前学習をもとにしたグループ討議を通して学ぶ。				前田	演習		
5回	手術を受ける子どもと家族の看護②				子どもの周手術期の特徴と必要な看護について学ぶ。 手術が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。 手術が子どもと家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護について学ぶ。				上杉	講義		
6回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護①				ネフローゼ症候群や1型糖尿病が子ども(思春期)と家族に及ぼす影響や問題とその看護方法について、各自の事前学習をもとにしたグループ討議を通して学ぶ。				前田	演習		
7回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護②				食物アレルギーが子ども(幼児期)と家族に及ぼす影響や問題とその看護について、各自の事前学習をもとにしたグループ討議を通して学ぶ。				前田	演習		
8回	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護③				慢性疾患や先天的な疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学ぶ。慢性疾患や先天的な疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題を解決するための看護について学ぶ。				前田	講義		

学 習 課 題

※事前課題

- 4回扁桃摘出術を受ける子ども、6回ネフローゼ症候群、7回食物アレルギー(卵)、
4.6.7回の授業で扱う疾患や手術が、子どもと家族の身体・精神・社会的側面に及ぼす影響や問題について各自で考え、所定の用紙にまとめる。
また、それらの影響や問題を軽減・解決するために必要な看護について各自で考え、所定の用紙にまとめる。
各自がまとめた事前学習の内容は各授業でのグループワークで活用するとともに、評価の対象となる。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員、看護職として小児看護等の臨床経験を有する。担当教員は看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。